

オープンデータのビジネス活用セミナー in 松江 開催概要

■主旨

島根大学では松江市、地元 IT 企業と共同で行政情報・観光情報・学術情報などをオープンデータのフォーマットに変換し地理情報システムを用いて地図上に表示できる仕組み（松江ソーシャルネットワークマップ）を松江発のプログラミング言語 Ruby で構築しています。今後は松江ソーシャルネットワークマップなどから発信されるオープンデータを活用して、地域課題を解決するための Web アプリケーションを、プログラミング言語 Ruby を中心にしながら開発を促進していくことが求められています。またこれを継続させるためのビジネスモデルの構築も必要となります。

そこで、オープンデータの活用とその推進を目的として、電子政府の取組が進む中でのオープンデータの意義を確認し、そしてオープンデータを民間がビジネスとして活用するための事例を学ぶセミナーを開催いたします。

■日時・場所・主催

・ 日時：平成27年6月26日（金）
午後6時～午後8時

・ 場所：松江オープンソースラボ

松江市朝日町478番地18 松江テルサ別館2階

http://www1.city.matsue.shimane.jp/jigyousha/sangyou/ruby/rabo_open.html

・ 主催：島根大学（Ruby・OSSプロジェクトセンター）
共催：松江市 しまね OSS 協議会



■概要

講演 1

テーマ：公共分野における電子化の進展と現状 ―オープンデータからネット選挙解禁まで―

講師：本田 正美氏（島根大学 Ruby・OSS プロジェクトセンター 特任助教）

講演概要：

1990年代後半以降の急速な情報通信技術の発展に合わせて、公共分野における電子化も進められてきました。その取り組みは、「電子政府 (e-government/digital government)」と総称され、世界中に広まっています。当初は、政府内の電子化が進められましたが、その後、行政手続のオンライン化などが実現しています。昨今では、政府が保有するデータを自由に二次利用可能な形式で公開するオープンデータの推進といったことも行われるようになってきました。公共分野ということでは、政治分野における電子化の進展も急です。2013年には選挙期間中のインターネット利用の解禁、いわゆるネット選挙の解禁があり、選挙運動や普段の政治活動のあり方も変化しています。今回は、それら公共分野における電子化の進展と現状について報告します。



講演 2

テーマ：オープンデータビジネス ～最新事例とビジネスモデル～

講師：東 富彦氏（一般社団法人オープンコーポレイツジャパン 常務理事
株式会社パブリカ 代表取締役社長）

講演概要：

欧米を中心にオープンデータを活用した新ビジネスが急速に立ち上がりを見せています。オープンデータとは公的機関が保有するデータを公開し民間活用することにより、①行政の透明性向上、②市民参加の促進、③民間ビジネス創造を目指した取り組みです。ニューヨーク大学の”Open Data 500”プロジェクトにおいてビジネス事例が多数公開されるなど、オープンデータ活用ビジネスは着々と進んでいるように見えます。一方、地方自治体においては、予算不足やスキル不足によってオープンデータが本格的に進んでいません。苦勞してデータ公開をしても新しい公共サービスやビジネスにつながりません。ところが最近になって、新しいビジネスモデルによって従来は公共サービスとみなされていた領域のビジネス化に成功する企業が現れてきました。本セミナーでは、オープンデータビジネスの事例をもとに、成功のためのポイントについてご紹介します。

